

納付金は減少。 しかし保険給付費は増加 経常収支で赤字決算に

令和3年度の事業報告および収入支出決算報告が、7月7日に開催された第78回組合会において承認されました。

健保組合の全国組織である健康保険組合連合会（健保連）が発表した「令和4年度健康保険組合の予算早期集計結果（概要）」によると、健保組合全体の約7割が赤字の予算を編成しているとのこと。高齢者等の医療を支えるための拠出金は前年度予算より2080億円減少。しかしこれは令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大状況のなかで高齢者医療費が減少したことにより、2年後の精算額などの影響で一時的に減少したものと考えられます。

令和2年度はマスクの着用や手洗いの励行により、新型コロナウイルス以外の感染症が減少したほか、感染を懸念した受診控えも影響して医療費の総額も高齢者医療費も減少しました。令和5年度以降は団塊の世代の75歳到達により後期高齢者支援金が増加するため、拠出額の急増が懸念されています。今年の10月から、一定以上の所得がある後期高齢者の窓口負担割合を2割とすることとなりましたが、現役世代の負担軽減策としては不十分です。支える側である健保組合の財政運営が立ち行かなくなれば、公的医療保険全体の持続可能性が揺らいでしまいます。健保連は「現役世代の負担軽減と世代間の公平性確保」などを訴えています。

健康保険

当健保組合の令和3年度決算状況につきましては、経常収支で赤字となりました。収入面では、健康保険収入は前年度より77万4千円多い2億2634万4千円でした。支出に対して不足する収入額を補うために積立金を取り崩して繰り入れしました。一方、支出面については、皆さんの医療費や一時金などに充てられる保険給付費は、前年度より1411万3千円多い1億1834万1千円でした。

また、高齢者医療制度を支える財源として負担している納付金は、前年度より1420万3千円少ない7304万円でした。減少したとはいえ納付金は支出全体の29%を占めており、依然として大きな財政的負担となっております。

保健事業費には1578万5千円を執行して、特定健診・特定保健指導などを実施しました。以上の結果、令和3年度決算も経常収支で赤字となりました。

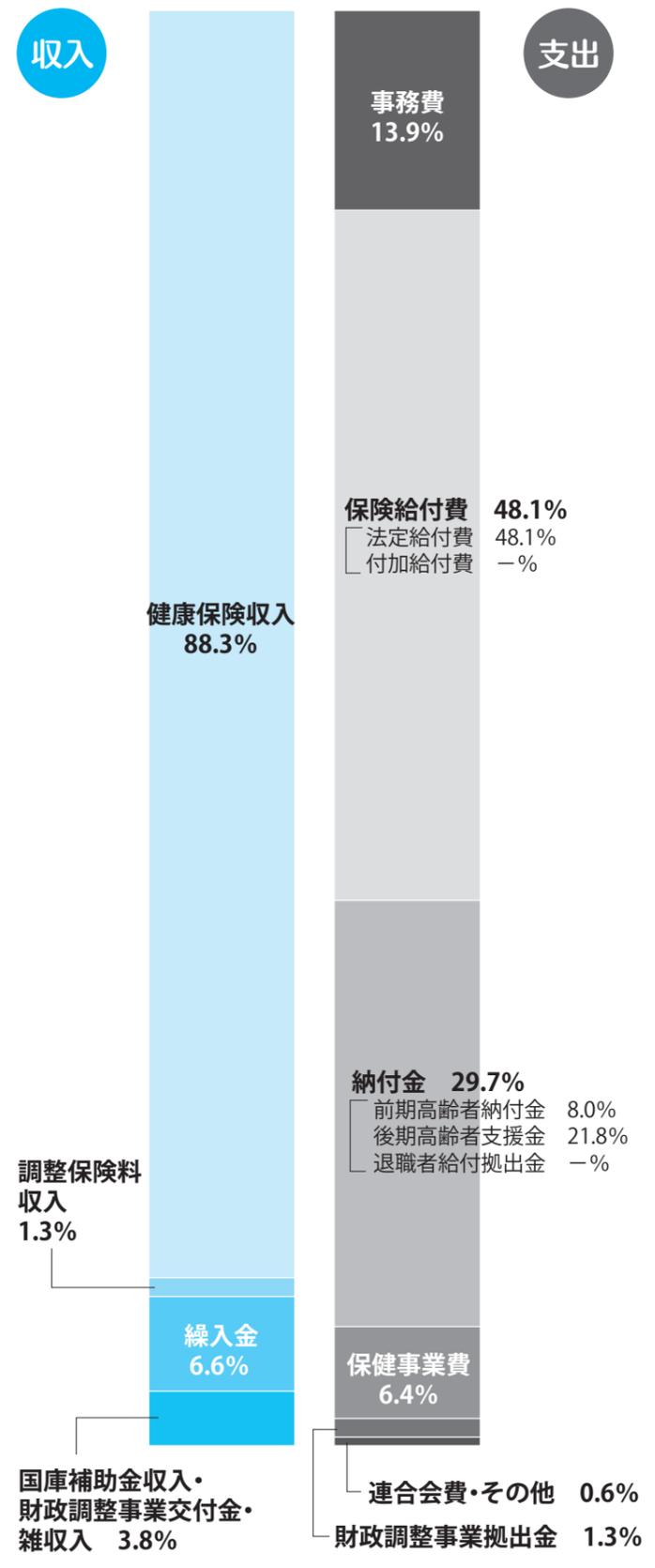
介護保険

介護勘定の収入支出決算は、収入2923万4千円、支出2666万7千円、差引額は256万7千円でした。

高齢者の方は、特に重症化リスクが高めです
自分と周囲の人を守るため
引き続き、感染予防を心がけましょう



令和3年度決算 収支の割合



令和3年度 収入支出の決算概要

一般勘定

●収入

科目	決算額
健康保険収入	2億2,634万4千円
調整保険料収入	324万4千円
繰入金	1,700万円
国庫補助金収入	132万1万円
財政調整事業交付金	340万8千円
雑収入	501万2千円
合計	2億5,632万9千円
経常収入合計	2億3,133万2千円

●支出

科目	決算額
事務費	3,420万5千円
保険給付費	1億1,834万1千円
法定給付費	1億1,823万5千円
付加給付費	10万6千円
納付金	7,304万円
前期高齢者納付金	1,949万円
後期高齢者支援金	5,354万8千円
退職者給付拠出金	2千円
保健事業費	1,578万5千円
財政調整事業拠出金	324万4千円
連合会費	23万円
積立金	109万8千円
雑支出	6万9千円
合計	2億4,601万2千円
経常支出合計	2億4,276万8千円

収支差引額	1,031万7千円
経常収支差引額	△1,143万6千円

介護勘定

●収入

科目	決算額
介護保険収入	2,922万9千円
雑収入	5千円
収入合計	2,923万4千円

●支出

科目	決算額
介護納付金	2,666万7千円
支出合計	2,666万7千円